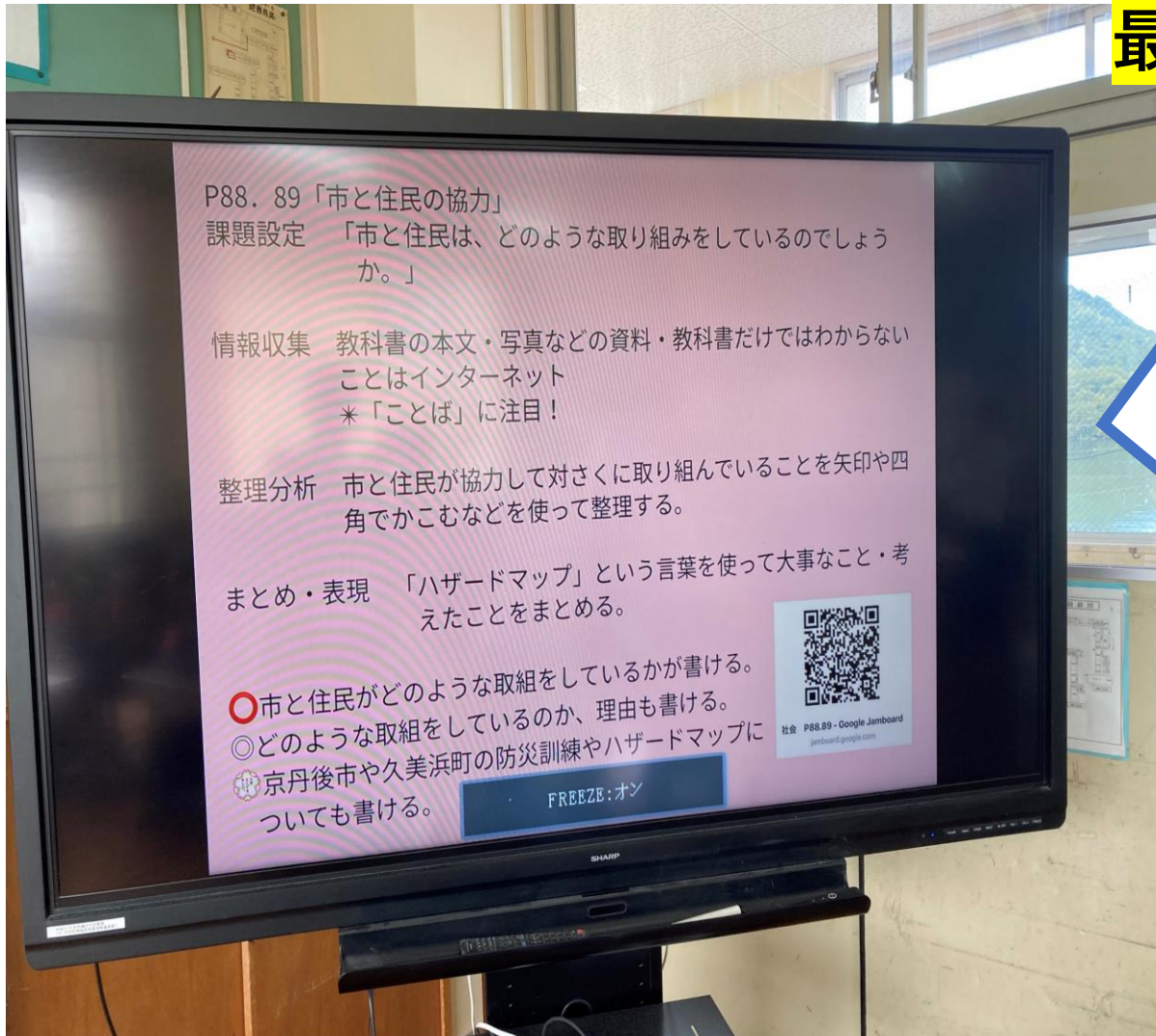


【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～日々の授業で～

最近の授業より



4年生の社会の授業です。電子黒板に大きく今日の授業の学習過程が示されています。学習過程は、「課題設定」、「情報収集」、「整理分析」、「まとめ表現」で整理されています。

子どもたちは、これを見ながら自分たちで学習を進めていきます。

【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～日々の授業で～

4年生 社会の授業風景



授業の学習過程を確認した後、子どもたちはそれぞれ自分で学び方を決め、自分のペースで学習を進めていきます。

担任の先生によると、まだまだこちらから自分で好きなようにペアになったりグループになったり動くことを促さないと、なかなか動けないとのことでした。

教師も子どもたちも、少しずつ新しい学び方、授業に挑戦しています。

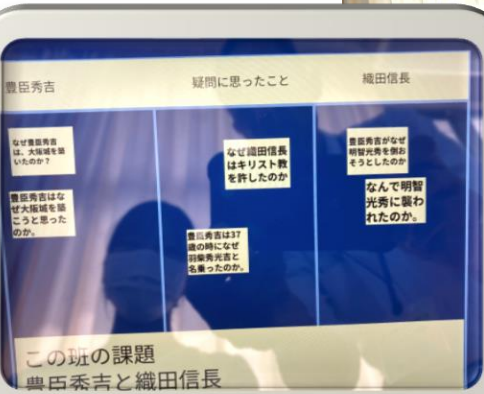
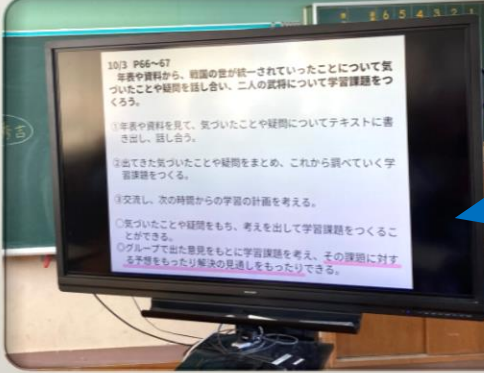
【取組内容①】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～日々の授業で～

6年生 社会の授業風景

6年生も学習過程は電子黒板に示し、「課題設定」、「情報収集」、「整理分析」、「まとめ表現」で整理

この授業では、最初から学習形態は班単位で行うように指示。情報の整理分析の仕方は、各班に自分たちがやりやすい方法を選ばせていました。担任の先生によると、班によっては整理分析に使うシンキングツールが、内容にふさわしくないものもあったので、そういった時はアドバイスをしていたそうです。

6年生でも、少しずつステップを踏みながら、新しい授業のあり方に挑戦しています。



☆できるところから少しずつ☆

【取組内容③】「校務の効率化、Teamsのチャット機能で情報共有の円滑化へ」

・まずは教職員自身がICT活用を積極的に活用し情報伝達の便利さを広げ、確実な業務改善へ

校務のICT化の取組

できることから少しずつ

1 目的

・情報共有をより円滑にする。

2 チャットの活用

Teams内にあるチャット機能を使えば、1対1や複数でメッセージのやりとりをすることができます。
連絡事項を伝達する際に教室まで伝えに行ったり、ふせん等に書いて机に貼り付けたりしていましたが、チャットだと瞬時に情報を伝えられますし、ふせんがどこかに行って情報が散逸する危険性もなくなります。

①活用できそうな場面

- ・保護者から「今日は学童休みます。」「病院に連れて行くので〇時に迎えに行きます。」といった連絡を受けたとき。
- ・教室から欠席状況を確認したいとき。
(コメントを打ち込むのが手間な場合は通話機能もあります。)

②お願いしたいこと

- ・着信音が鳴るように設定する。
- ・タブレットを教室に持って行く。
- ・こまめにチェックする。
- ・メッセージを確認したらなるべくいいねなどのリアクションをする。

チャット機能
音声通話機能
の活用

先生たちの声

- ・チャット機能は簡単に連絡事項を伝えておくことができ便利。
- ・急ぎの用件の時は、音声通話がすぐにやり取りできて便利。
- ・ちょっとした要件があるときも、わざわざ教室に尋ねていなくても連絡が取れるのはありがたい。
- ・職員室に戻ったときに確認しようと思っていたら忘れていたということもあるけれど、その場で直ぐにチャットすれば、忘れることが少なくなる。

・教員も新しい学習形態に慣れ、トライ&エラーを繰り返しスキルの向上へ

新しい学習形態に、チャレンジし、慣れていくことが必要。

10月の校内研より

活発な質問や意見交流が行われました。

個別、ペア、グループ、それぞれ自分で学習形態を選んで学んだ後、学習のまとめはするんですか？→しません。そのままスッと終わります。慣れるまでは不安になりますが、それで大丈夫です。

本当に、このまま終わっていいの？と不安になります。（担任）

意見や考えを全体で交流したりしないのですか？→しません。子どもたちは勝手に集まって議論をするようになります。

学びが確かなものに向かうためには、それまでに学び方（情報収集、整理分析）がしっかり身に付いていることが必要。

出来ていなかったら、もう一度押さえ直す。

トライ&エラーの繰り返し

子どもたちがたどり着いた結論が間違っていたらどうするんですか？→**基盤がしっかりしていれば、正しい結論に達します。** そうならないということは、**基盤がしっかりできていない。** 必要であれば、**押さえるところをしっかりと押さえ直します。**

課題設定は難しいという話もありました。

今日の授業から考えたいこと

- 【課題設定】
- ・学習課題を作る
- 【情報収集】
- ・
- 【整理分析】
- ・
- 【まとめ表現】
- ・自分が特に学習を深めたいポイントを自分の言葉でまとめる



学習課題はどうやったら作れるか？班？個人？

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

・1人1台端末、複線型授業を進める上での教師の役割と授業の進め方？NO1

できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～



教師の心構え

- ①1時間の内、全てが複線型ではない。一斉で確認すべきことは確認する。（複線型の授業にチャレンジして初めて、一斉で押さえないといけないところが見えてくる。）
- ②学習を子どもたちに任せてみて、「ここでつまづくのか！」「意外とできる！」などの発見をする。それによって、「一斉で押さえるところ。」「子どもに任せるところ。」といった教材研究の仕方が違ってくる。（これは一斉授業のままだと気付けない。）

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No2

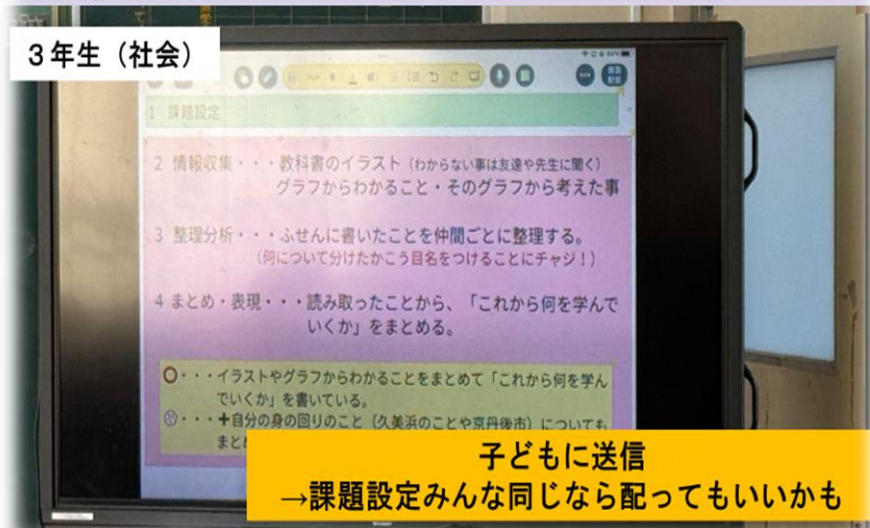
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

③共有すべき資料を、子どもたちに配る。(学習過程、授業で使う資料など)

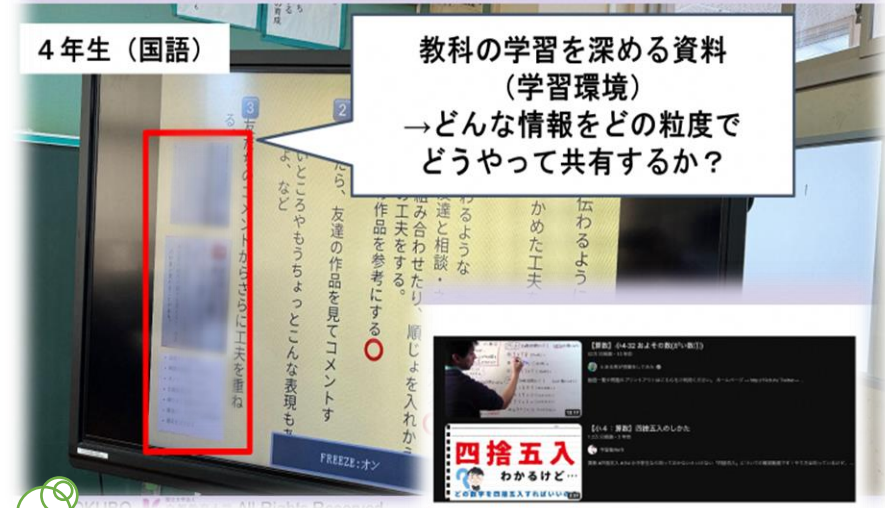
今日の授業から

3年生(社会)



今日の授業から

4年生(国語)



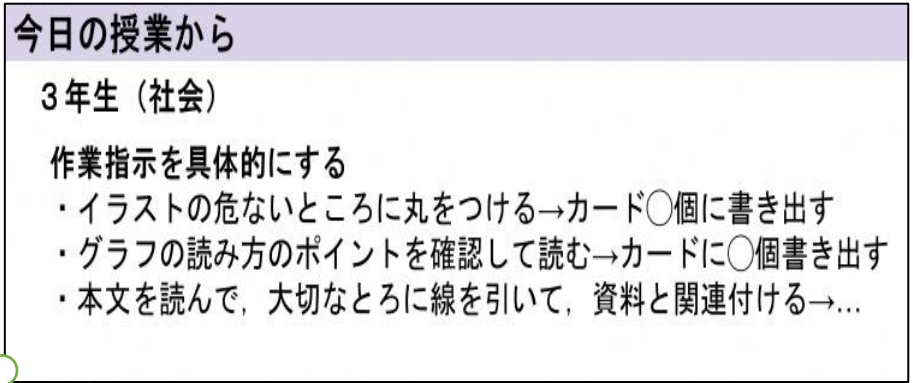
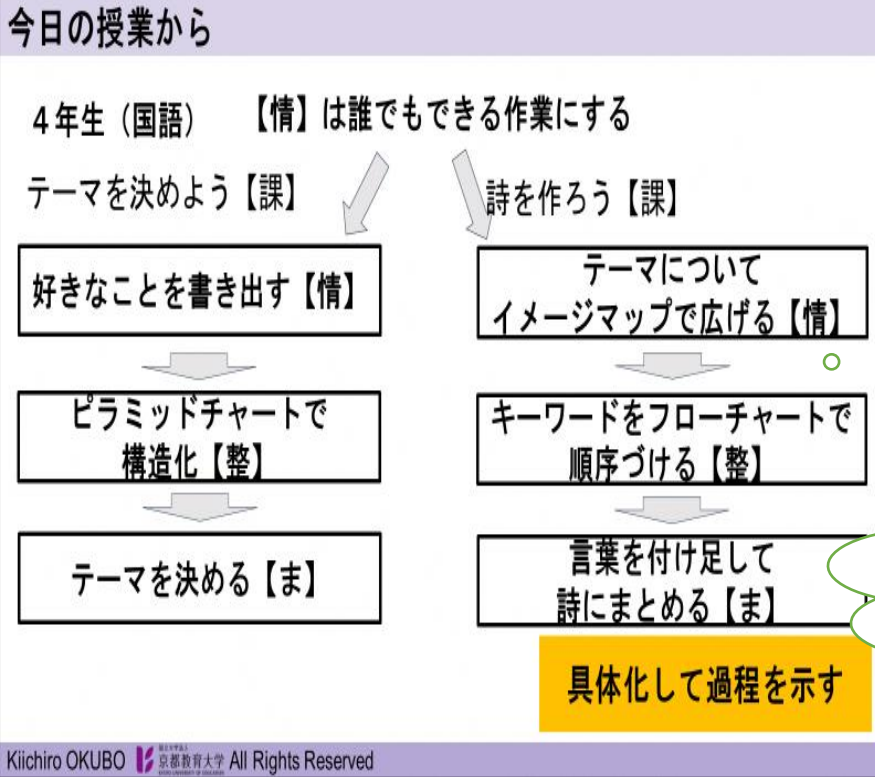
学習過程は、子どもたちがいつでも確認できるように、端末に配信する。また、学習に使う資料や、使えるコンテンツ(NHK for school、YouTube等の動画)を共有する。

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No3
 できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

④情報収集は作業にする。（具体化して過程を示し、誰でもできるようにする。）



作業を具体的に示すことによって、誰でも学習に入りやすくなる。それが、授業のテンポアップにもつながる。

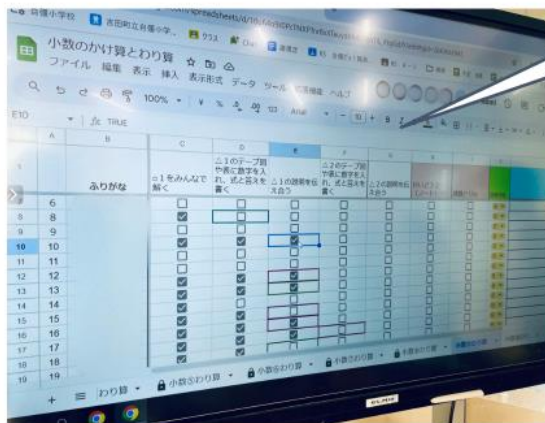
【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No4
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

⑤学習の進捗状況を、教師も子どもも見取れるようにする。（クラウドの活用）
今日の授業から

4年生（算数）



（教師）誰を支援するか？
（子供）誰と協働するか？

クラウドで進捗を把握

学習の進捗状況を確認し、教師はタイムリーに指導支援を行う。
子どもたちは、協同する相手を見つける。

⑥振り返りの時間をとる。（内容ではなく、学習方法について振り返らせ、蓄積していく。）学習内容のふりかえりとは別に、学習方法について振り返りをする時間を5分取る。自分に合った学習方法を考えながら、**自己調整力**を育む。